

令和2年度第3回

小金井市都市計画審議会

書面開催結果

令和2年度第3回

小金井市都市計画審議会書面開催結果

○案件

小金井市都市計画マスタープラン中間報告（案）について（報告）

○書面開催日時 令和3年3月11日（木）

○回答様式 意見書

○意見書提出委員

16名【意見あり7名（別紙参照）、意見なし9名】

会 長	8 番	宇 於 崎	勝 也				
委 員	1 番	高 橋	金 一	2 番	吹 春	やすたか	
	3 番	村 山	ひでき	4 番	邊 見	隆 士	
	6 番	白 井	亨	7 番	鈴 木	則 幸	
	9 番	渡 辺	ふき子	11 番	水 上	洋 志	
	12 番	細 見	明 彦	14 番	土 屋	丈	
	15 番	野 中	好 明	16 番	本 間	紀 明	
	17 番	紀	由紀子	18 番	片 山	薫	
	19 番	大 橋	一 朗				

○意見書未提出委員 3名

5 番	田 辺	康 弘	10 番	斎 藤	康 夫
13 番	清 水	が く			

○傍聴者 無し

- 資料
- ・小金井市都市計画マスタープラン中間報告(案)
 - ・小金井市都市計画マスタープラン中間報告(案) 参考資料
 - ・委員提出書類（議員案第14号）

○その他

新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言の延長に伴い、書面開催とした。

意見書の提出があった16名のうち、「意見欄」に記入のあった8名の意見は次のとおりである。なお、都市計画審議会委員名簿順とする。

【邊見委員】

中間まとめ案の策定に至るご尽力やご苦勞もしのばれ、概ね良く出来ていると考えます。ただせっかくの機会ですので、意見を幾つか申し上げ、最終まとめに向けて、参考にして頂けるところがあれば幸いです。

① 「らしさ」について

本当なら小金井らしさがもっとあって欲しいと思います。p11に触れられてはいますが。例えば、あらためて学校の多さに気付かされ、大きな財産と思います。JR中央線は、沿線（中央線の連立区間）で、最も長きにわたって貫いています。あるいは最も多摩らしい、と胸を張っても良いかもしれません。緑が多く（多分）、東京都心エリアにも程よく近接し、埼玉や神奈川を含め広域的なつながりを強めるインフラも充実しつつあります。

② コンパクトシティについて

コンパクトの言葉や、それぞれの拠点について詳しく書かれています。ただ、将来を見据えた時、その有する意味は、もう少しかみくだいておきたいところです。例えば、人口減少時代にあって、市街地が多少縮み始めたとしても、身近なところに、たとえ小さくとも便利な機能集積の「山」が点在していることが、地域の魅力につながります。

③ ツールとして生かすことについて

マスタープランは、いろいろな施策の寄せ集めであったり、文章で表現された絵姿であったりします。ただせっかく作るのであれば、ツールとしても有効活用したいところです。例えばですが、p22親水空間では「都に要望」とあります。市自らも、河川に公園や学校が接しているところでは親水護岸（兼用工作物）を創れるところもあると思います。記述をテコに、例えば、JKK小金井住宅でJKKに要請しつつ、市も汗をかいたり役割を果たしたり…。目標に向けて、自らのツールとして生かす視点も必要と思います。

④ 蓄積されつつあるストックを将来に向けて生かすことについて

これまでの様々な努力を踏まえた上で、将来に思いを致すことが、やはり大切だと思います。例えば、中央線の連立は、先人たちの、あるいは地域の方々を含め、大変な努力の結果、実現しました。「らしさ」にも書きましたが、小金井は、その代表的な地域と言えます。

これによって、南北交通は飛躍的に向上し、街づくりのきっかけとなり、駅前広場も整備されました。

フィーダー交通のような観点も含め、有する意味をもう少し分かりやすく出来ると、より良いと思います。将来の自動運転やセミパブリックな新たな交通システムが出てくるだろうことを考えると、大切と思います。

⑤ 道路について

個別の路線については、様々な議論があるようですので、それを踏まえると、このような記載で良い（やむを得ない）かなと思います。また、自転車、災害時、歩行空間…などの面も、記載頂いています。出来ればですが、将来に向けた意味を、市独自にさらに描けるとより良いように思います。

「フィーダー交通」としての役割もそうですが、蓄積してきた道路空間ストックをその時代に応じて場合によっては「リメイク」していく、あるいは、賑わい空間としての活用もあるかもしれません。上記の「ストックを生かす」という観点からも重要と思います。広域的な道路については「都への要望」とあります。広域的なつながりや域外への視点は、「らしさ」でも書きましたが、将来の市にとって重要な要素です。例えば、放五とつながった東八道路など、どう生かすんだといった視点があっても良いように思います。

⑥ 防災について

ご苦労されていると思いますし、個々にはいろいろ記述されていると思います。ただ少々断片的な印象もありますので、「思い」をもう少し出せると良いように思います。首都直下地震をはじめひつ迫性が指摘されています。過去の大きな災害に照らして、しならば小金井ではどのようなことが起こり得るのか…。燃え広がらないようにする、倒れないようにする、逃げやすいようにする…など大きな目指す柱もあると思います。

なお、住宅の耐震について「防災上の交通基盤」に記載されていることは、少々、違和感を感じる点ではあります。以上です。

【白井委員】

① 見直しについて、の全体的な意見

20年間の計画期間である、この都市計画マスタープランの見直しにあたり、「現状」を分析し成果と課題を整理したことは良いと思います。ただし一方で、20年後がどういう社

会になっているのか、という想像と仮説を検討した経過が見当たりません。現時点を起点とすることは当然だと思いますが、あわせて20年後を想像しながら、逆算して20年間何をするのか、ということを検討する視点も重要ではないかと考えます。この件に関しては、市議会全員協議会の場合でも質疑しましたが、答弁としては「各分野別方針に目指す将来像を記載し、イラストも入れるという新しい取組みも行っている」と述べられました。それは結構なことですが、私が意見したいのは、この将来像を描くもととしての20年後の未来がどうなっているかの想像と仮説の議論が不十分ではないかという問題提起です。

② 見直しに向けた論点（視点）の整理 【P.11】

「（５）先端技術の進展を見据えたまちづくりのあり方」にはスマートシティや Society5.0などについても触れられており、今後さらにこの先端技術の進展が見込まれる中において、都市計画マスタープランの中に位置づけていくかは重要な視点だと認識しています。

ところが、この論点（視点）について具体的に触れているのはP.18のMssSやP.28にとりあえず「ICT」や「AI」という言葉は入っているものの、「先端技術の進展を見据えたまちづくりのあり方」という論点（視点）での書き方と齟齬があるのではないのでしょうか。確かに技術はあくまで手段ですが、各分野で結論として書いてあることは、これら「先端技術の進展」に関係なくこれまでめざしてきた内容であり、「先端技術の進展」を「見据えたまちづくりのあり方」はどこにも書いていません。具体的に検討し、書いてください。この指摘をうけて、逆に（５）の記述を変えるようなことはなきよう、お願い申し上げます。

③ 分野別方針 （３）新たな移動手段の検討のところ 【P.18】

MaaSなどを「検討します」という文章ですが、この間に「必要に応じて」という文言が入っています。この文言は削除してください。その検討の必要性についてご認識ないという意味になります。

④ 分野別方針 都市計画道路整備のところ 【P.19】

現行のマスタープランでは、3.4.1号線については「一部区間の変更を都に要望する」旨が記されてありましたが、この点からみても新しい都市計画マスタープランでの記述は「後退」を意味します（東京都から優先整備路線に位置づけられた状況があることは理解していますが）。今の表記の仕方では全ての路線が「東京都と連携して」「整備を進めます」

となっており、また、最も大切な「地域住民との対話・合意形成」に関する記載がありません。市の姿勢を疑います。また、「地域住民との対話・合意形成」が最も重要な要素であることは市長が「市民が納得しない都市計画道路は作らせない」と言ってきたことから明らかであり、他の検討・調整のための要素の中で最も重要な位置づけとして記載してください。

西岡市長は2019年12月の市長選挙時には「市民が納得しない都市計画道路は作らせない」と訴えておられました。しかし、これまでの議会での市長答弁がその市民との約束が果たされない内容であり、市議会からも3月8日に決議が賛成多数で可決されています。これに基づき、個別路線についての市としての考え方を示してください。

【鈴木委員】

① 都市計画道路3・4・1と3・4・11について

市民が必要とする道路ならばつくればよいと思う。3・4・11についてはオーバーパスにするなど考えればよいと思う。

② 危険なブロック塀の早期除去及び生け垣造成などの推進について

落葉の問題、剪定の問題等により近隣とのトラブルの原因になることもあるので、管理についての指導等も必要だと思う。

③ 個人宅の保存樹木について

このような制度を続けていくなれば、もっときちっとした内容にするべき。大きな問題をいくつも抱えている。その樹木を本当に保存してよいのか、申請した者がその土地を離れる場合、その樹木をどうしていくのか。

【宇於崎会長】

意見ではなく、都市計画マスタープランの取りまとめに向けた考え方について

① 都市計画道路について

一部委員より提起された、3・4・1号線及び3・4・11号線に関して「市長の意思」を都市計画マスタープランに反映すべきという意見に対して、市長・議会・市民の強い要望があることは理解できる。

一方、本2路線については東京都道であり、その整備は東京都施工であって、市の都市

計画マスタープランで何らかの表記を行ったとしても、その整備方針について影響を与えることはできない。

本日示された、中間報告（案）は十分とはいえないまでも、「なお、社会経済情勢及び地域のまちづくりの変化などを踏まえ、必要に応じて今後の方針を決定します。」の表現は、議会・市民の要望に応じ、時機を得て東京都の整備方針への対応を行っていくとの意思が伺え、現時点ではこの一文において了とすべきと考える。

なお、都市計画マスタープラン策定においては引き続き、本件について市民が理解しやすい、小金井市内の都市計画のあり方を反映した表現になるよう依頼をしたい。

【水上委員】

① 20年後の社会状況について

高齢化の進行などより分析して、それに対応したまちづくりについて、今までの延長ではない検討を行う必要がある。

② スマートシティ、society5.0など国の計画

そのままではなく、市としてどう対応するのかの検討を行うべきである。プライバシー保護など問題が指摘されている。配慮を求める。

③ 広域幹線道路の整備方針について

五日市街道は地元から整備要望は出ておらず、玉川上水の自然環境を守ることや関係住民にもどう整備されるのかの情報が示されていない。「整備推進を要望する」としているが除外すべきである。

④ 都市計画道路の整備について

「道路整備を計画的に進める」と全体の道路整備について述べているのは問題がある。各路線名が明記されているが記述すべきではない。優先整備路線の2路線は市長公約「市民が望まない道路は作らせない」の見地で整備を行わないことを求めるなど明記すべき。住民の理解と同意について明記すべきである。

【土屋委員】

① 中間報告について

「P11、4.見直しに向けた論点（視点）の整理（5）先端技術の進展を見据えたまちづく

りのあり方」 「P24、3-4. 安全・安心の方針、①災害に強い市街地の形成（4）情報通信機能の強化」について

通信インフラの整備も盛り込むべきだと思う。現状のコロナ禍において、リモートワークやWEB会議など、通信インフラの重要性が認知されている。これからの時代は、ますます情報通信インフラの重要性が増すと思われる。人や物の移動、防災の観点から道路の整備は重要であり、重点的に整備されるべきものだと思うが、それと同等かそれ以上に公共インフラとして情報通信インフラの整備が重要になると思われる。情報通信インフラにおいては、無線通信に偏重するのではなく、特に災害時に備えた、有線通信網も踏まえた二重三重の通信セーフティネットが必要と思われる。

② 議員案14号について

小金井市の全体像を描く都市計画マスタープランにおいて特定の都市計画道路についてフォーカスすることは、疑問に思う。仮に、小金井市民全員が反対していることが明らかな都市計画事業については、盛り込んでもよいと思われるが、賛否が分かれるような計画は、個別の都市計画事業についての議論の場で審議をする方が馴染むと思う。また、都市計画審議会において、「市長の意思を示すことを求める」ことの主旨と法的な根拠が分からない。「市民が望まない都市計画道路は作らせない」ということを盛り込んだほうが良いという提案であれば、単純に議員案として、その旨を都市計画マスタープランに盛り込むように提案すればよいと思う。「市長が約束したことを何らかの形で反映する」ことは、小金井市側の判断によるべきものと思うので、盛り込まないことに不満であれば、議員の責任で具体的な内容を提案しマスタープランにその内容を盛り込むように提案したほうが分かりやすいと思う。

都市計画審議会は、都市計画についての審議や議論をする場であって、「市長がこう言ったから」とかは、一人の都市計画審議委員としては、論点がずれているように思える。具体的な都市計画の内容について議論したい。今回の議員案の内容は、純粋な都市計画の議論と違うのではないかという印象を受けた。

私は、現行の都市計画道路について、不満はなく、むしろ経済面、防災面の観点から、推進すべきと考えているのが、マスタープランに個別の都市計画道路の是非について盛り込むことは、市民の100%賛否が明確になっているもの以外、不適切だと思う。

【紀委員】

- ① 武蔵小金井市南口再開発事業により、安心安全・市民の利便性向上が図られ、子育て世代も増加し、街づくりの重要性を実感する。
- ② 20年後の目指すべき将来像（2）小金井市らしいまちづくりのあり方で農をいかしたまちづくりのあり方とあるが、農福連携・食育の推進・防災の視点でも推進していただきたい。
- ③ （3）持続可能なまちづくりのあり方で公共施設の維持管理更新とあるが、市民要望の高い図書館の建設も目標を掲げていただきたい。
- ④ （5）先端技術の進展を踏まえたまちづくりのあり方も重要である。
- ⑤ 水・緑・環境共生も重要であり、環境教育の推進も求める。

【片山委員】

都市計画道路の記載の仕方を変更すべきである。全て同等に並べるのはおかしい。特に3・4・1号線、3・4・11号線については、計画についての反対・見直しを掲載すべきである。

— 了 —